

対象学年: 第1学年以上
領域・単元等 地理的分野 「世界と日本の地域構成」

1. 作成の趣旨

「時差」の授業について、生徒の日記や「詩」を題材として、時差と日常の生活場面が結びつくように、また、スモールステップで時差の概念を理解できるように、本問題を作成しました。

【関連する学習指導要領の内容】

- 我が国の国土の位置, 世界各地との時差, 領域の範囲や変化とその特色などを基に, 日本の地域構成を大観し理解すること。地理A(1)[知識及び技能]ア(イ)
- 世界の地域構成の特色を, 大陸と海洋の分布や主な国の位置, 緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し, 表現すること。地理A(1)[思考力, 判断力, 表現力等]イ(ア)

2. 活用場面等(例)

例1【授業の題材や展開例として】く東京書籍・教育出版・帝国書院（地理）第1学年5月頃

⇒留意点

- ・問題中の生徒日記のように、「時差と結びついている生活場面」や「時差と関連のある各教科等の学習内容」を題材にするなどし、時差に対する関心を高めましょう。
- ・(1)～(3)までの問題の流れのような、「地図帳で位置を確認する」→「時差の求め方を確認する」→「時差を計算する」というスモールステップで学習活動を設定しましょう。

例2【本時の授業や単元最後の活用問題、学年末の問題として】

⇒活用後について

- ・定着ができていない生徒には、(1)や(2)を活用して、定着を図りましょう。
- ・定着ができていない生徒には、(3)の後、「日本が〇月〇日〇時の時、パリは何月何日の何時でしょう。」等、発展的な問題に取り組ませましょう。

3. 「世界と日本の地域構成」の授業の充実に向けて

○地理的分野の導入に当たる本単元は、「緯度と経度」「位置」「世界各地との時差」など、地理の学習の基本的事項として身に付けるべき事柄が多く、教師の説明が中心になってしまうことがあります。時差の授業について、教師が計算の仕方を説明する授業から、生徒が日常の事象をもとに、時差について実感し、時差の概念を理解できるような授業展開を考えてみましょう。

